

偏向管 (PC橋外ケーブル用)

PC橋外ケーブルの定着部・偏向部での形状確保に用いる埋設鋼管です。
PCケーブルの損傷を防ぐための形状・構造を備えている当社で開発した偏向管です。

性能

- 1 あらゆるケーブル線形に対応します
- 2 溶融亜鉛めっき処理により高度の防錆性能を確保します
- 3 各種定着システムに対応できます
- 4 曲げ管の使用及び管端部拡幅加工によりケーブルの角折れを防止します

種類

① 定着管



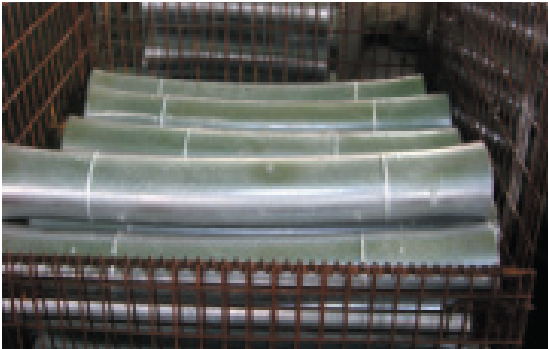
端支点、中間支点において各定着システムと接合する管

② 貫通管(支点部)



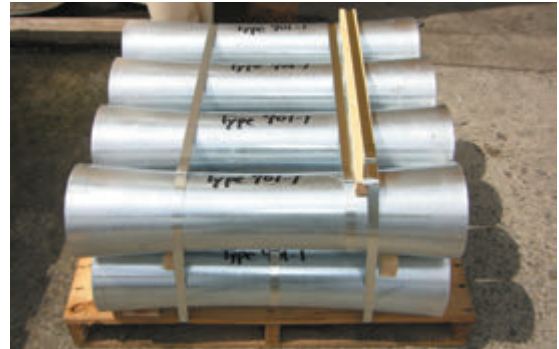
中間支点部及び隔壁においてケーブルを貫通させる管

③ ベルマウス加工曲げ鋼管



偏向部においてケーブルを貫通させる管

④ ディアボロ管

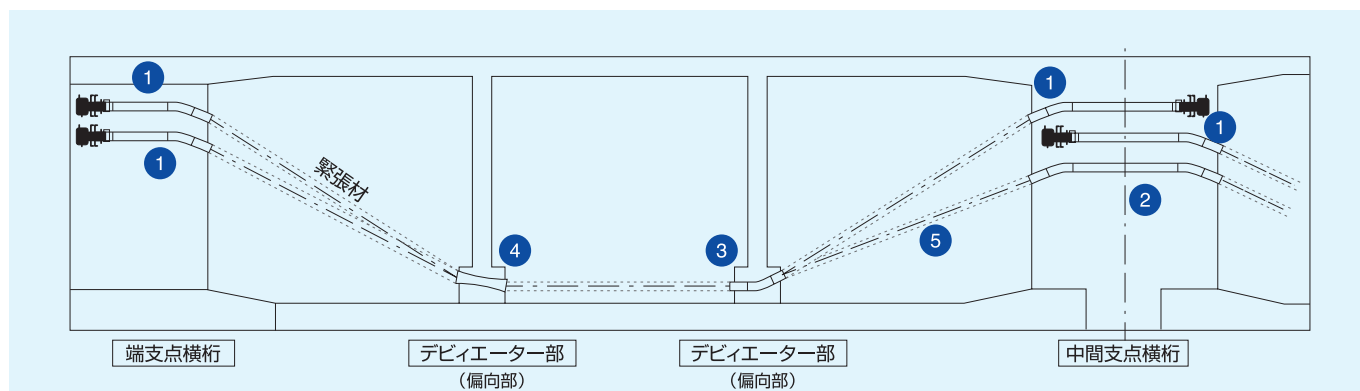


偏向部においてつづみ状に加工した管

⑤ PE管



番号	種類	加工形状	据付	据付場所
①	定着管	2次元	3次元	端支点・中間支点横桁
②	貫通管(支点部)	2次元、3次元	3次元	端支点・中間支点横桁及びデビエーター部
③	ペルマウス加工曲げ鋼管	2次元、3次元	3次元	デビエーター部(偏向部)
④	ディアボロ管	1次元(直線)	3次元	デビエーター部(偏向部)
⑤	PE管(JIS K 6761)			



■ 使用材料

配管用炭素鋼鋼管(JIS G 3452)を使用します。

又、ご要望により一般構造用炭素鋼鋼管(JIS G 3444)も使用できますが、溶融亜鉛めっき(HDZ55)処理のため厚み4.5mm以上の鋼管になります。

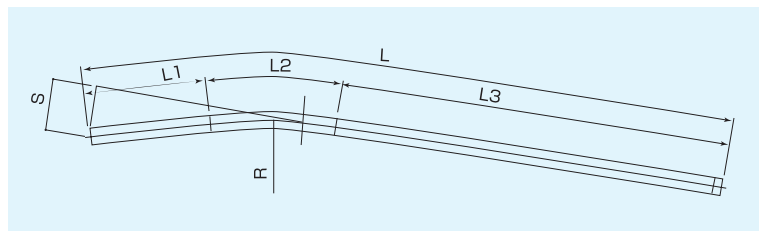
■ 主要鋼管サイズ

ケーブル構成による管の大きさ

ケーブル種類	鋼管種類	外径(mm)	厚み(mm)	曲げ半径(mm)
12S15.2	SGP100A	114.3	4.5	R=3000、3500、4000
19S15.2	SGP125A	139.8	4.5	R=3000、3500、4000
27S15.2	SGP150A	165.2	5.0	R=3000、3500、4000

ご要望により上記以外の鋼管にも対応致します

■ 寸法管理値



寸法項目	管理値
各部長さ L1、L2、L3	±3.0 mm
全体長さ L	±5.0 mm
シフト量 S	±5.0 mm
曲げ半径 R	±5.0 mm
扁平率 D1-D2/D2	5%以内

■ 検査

1 外観検査

製品の表面、特に端部成型部に傷や付着物その他欠陥の有無を確認します。

2 寸法検査

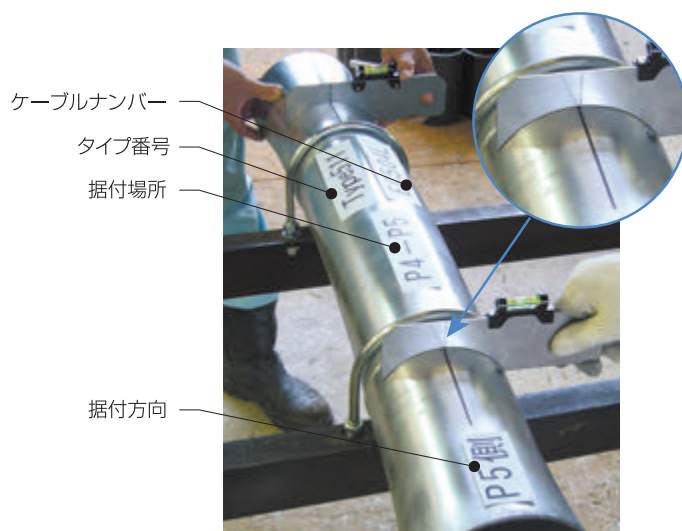
製品の各部長さ、全体長さ、シフト(偏芯)量及び端部径等を測定し管理値内にあることを確認します。

3 めっき(表面処理)膜厚検査

膜厚計を用い平均膜厚の測定確認を必要に応じて行います。

■ 取付方法

据付の位置決めを容易に行えるように、偏向管には据付場所・タイプ番号・ケーブルナンバー及び据付方向を記入しています。所定位置に偏向管を据えて、ポンチマーク付近の縦墨が真上になるように取り付けてください。



■ 取扱注意事項

- ① 長期間保管する場合には、地面に直接置かないように上屋のある倉庫内に保管するか、屋外の場合は雨露にさらされないようにシート等での養生を行ってください
- ② 製品の取扱の際には、特に管端部を傷付けないように注意してください

■ 偏向管の製造工程

1 鋼管切断



5 めっき



2 端部成形



6 検査



3 仮組



7 完成



4 溶接

